

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0193600350		
法人名	日総ふれあいケアサービス株式会社		
事業所名	ふれあいの里 グループホーム 柘		
所在地	苫小牧市青葉町2丁目9-10		
自己評価作成日	平成26年11月20日	評価結果市町村受理日	平成26年12月25日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

近隣に協力医療機関があり冬でもロードヒーティングが備わっており安心して通院することができます。四季がわかるよう季節ごとの飾りつけや行事を行っています。個々に合わせ外出支援も行っています。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2014_022_kan=true&amp;JigrosyoCd=0193600350-00&amp;PrefCd=01&amp;VersionCd=022">http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2014_022_kan=true&amp;JigrosyoCd=0193600350-00&amp;PrefCd=01&amp;VersionCd=022</a>
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	平成26年12月4日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「ふれあいの里 グループホーム 柘」は青葉駅前の住宅地に位置し、同系列の高齢者住宅に隣接している2ユニットのグループホームである。建物内は回廊型で食堂と独立した居間は広々しており、団樂が楽しめる空間になっている。開設11年が経過し、町内会との協力関係や近くにある協力病院と連携し安定した運営を進めている。町内会の子ども神輿を楽しんだり、事業所の行事には保育園児の訪問が頻繁にあるなど子供と交流する機会が多い。町内会役員や近隣住民の参加を得て避難訓練を実施し、災害備蓄品類も整備している。管理者は当事業所で長年勤めた経験を活かして職員の意向を現場に反映させ、職員と一体になって良質のケアを提供しており、家族の安心感につながっている。法人の研修などで職員の育成にも力を注いでいる。計画作成担当者を中心に全員で介護計画を作成し、利用者の個別のニーズや希望を実現している。友人の来訪時には、おやつや食事を提供したり、友人と買い物に出かけるなど馴染みの人が気軽に来られるように配慮している。外出では数人で観光名所や工場見学に出かけたり、個別の買い物や暖かい時期に毎日散歩する利用者もあり、個々の意向に沿って支援している。

V. サービスの成果に関する項目(1階 アウトカム項目) ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域交流として町内会のお祭り、町内保育園の行事に参加しながら実践している	理念にある地域との交流を意識し、子どもや住民と交流する機会を大切にして実践につなげている。職員は理念の掲示や携帯のカードで内容を把握しているが、更にカンファレンスの機会に理念の共有を深めたいと考えている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣との挨拶、ゴミ拾いや落ち葉拾いなど交流をはかっている	町内会の子ども神輿が訪れる際には、お菓子を手渡したり、事業所の七夕、敬老会、クリスマス会には保育園児のプレゼントがあるなど、子どもとの交流が盛んに行われている。カラオケやメイクのボランティア訪問も利用者の楽しみになっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	町内会での集まりなどに参加し理解を求めている		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	御家族、町内会役員、市役所担当者、地域包括センターに参加いただき近況報告、意見交換をしより良いサービスにつなげている	2か月毎に開催し、防災のテーマで消防署職員の参加を得て地震や水害を話題にしている。市担当者の情報を基に、家族に肺炎の予防接種の意向を聞くなどサービスに活かしている。全家族に会議案内を送付しているが、参加の少ない会議もある。	会議案内に各テーマを記載し、家族の意見を収集できるような工夫で、更に家族の意見が会議に反映されるよう期待したい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議への出席依頼、その他疑問点には説明を受けたり相談をさせていただいている	介護福祉課の担当者が運営推進会議のメンバーになっており、情報交換や気軽に相談できる関係を築いている。事例で福祉用具の必要性から制度利用について相談したこともある。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は、正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人研修で「禁止の対象となる具体的な行為」などを学び、参加できない職員は資料で把握している。羞恥心に欠ける対応や抑制につながる言葉がけになっていないかを確認し、日中は施錠せず、外に出たい様子がある時は行動を共にしている。	内部研修を予定とのことで、マニュアルの「18項目のポイント」にある、具体的な禁止行為の11項目についても理解を深めるよう期待したい。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止等研修に参加し学ぶ機会もあり事業所内にてスタッフ一人一人が意識しながら注意を払い防止に努めている		

ふれあいの里 グループホーム 柘

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修の機会があれば、参加を促している		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分に理解、納得をしていただいた上で契約をおこなっている		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関にご意見箱を設置している。運営推進会議の再や日常の来訪時にご意見をうかがっている	家族の来訪時に報告し意見を聞いているが、意見などは少ない。毎年法人で家族アンケートを実施し結果も得ているが、意見が少ないのでアンケート項目等の内容を把握したいと考えている。意見などは「連絡ノート」に記録し共有している。	家族の個別の意向を収集し、些細な思いも意識して職員間で共有できるように記録の工夫を期待したい。
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に一度ケアカンファレンスを開き意見交換し運営に反映させている	参加できない職員の意見を事前に聞き、会議では利用者のケアを中心に業務の改善などを話し合っている。必要に応じてユニット合同の会議もある。昨年は全員に個人面談を行い、管理者は日々職員の提案を聞き、運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	開設から11年目となり、年々条件は、向上している		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人での研修の機会、法人外での研修案内は、回覧し研修の機会を作っている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内での研修、行事等で相互に交流することがあり資質向上に役立っている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居者様が、安心して不安や要望を話すことができるよう関係づくりに努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	御家族様の思いや困り事等を聞き安心できるような関係づくりに努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居者様、御家族のニーズの優先順位を把握しサービスの提供ができるよう努めている		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	できる事、できない事を見極めできる事は見守り、時には一緒に行なうようにしている		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	御家族様との情報交換を行いながら共に支えていくことができるよう関係構築に努めている		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの人の来訪時にはゆっくりと過ごせるように配慮し行きつけの床屋に行く等関係性が途切れない様配慮している	頻繁に来訪している友人に、おやつや食事を提供したり、利用者が友人と一緒に買い物を楽しめるように支援している。家族支援の他、馴染みの理美容室に職員が同行し、馴染みの関係を継続して支えている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様の個性、相性を把握し関わりに配慮しながら共同生活を送れるよう配慮している		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	関係を断ち切らないように相談事があれば支援している		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	直接本人に確認したり難しい場合には、日常の言葉や表情から汲み取るよう努めている	日々接する中で本人の会話や表情の反応を見て思いを職員間で確認している。「アセスメント表」は法人共通の書式を取り入れて移行中であり、3か月毎にケアプラン表に情報を蓄積している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	一人一人の生活歴や今までの暮らし方などの情報を職員全員が共有し把握している		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の介護記録や様子により現状の把握に努めている		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、御家族の意向をもとに月1回のケアカンファレンス、モニタリングを行い職員の意見を反映しながら介護計画の作成をおこなっている	「サービス実施状況」でモニタリングを行い、3か月毎にカンファレンスで評価・意見を交換し、来訪時に家族の意見を聞いて介護計画を作成している。日々の介護記録で、今後は目標に対する変化なども記録する方向で検討している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の訴えや心身の状態、ケアの実践状況を記録し、連絡ノート、ケアカンファレンスを通して情報を共有し介護計画の見直しに役立っている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ニーズの変更に対応しサービスを提供できるよう取り組んでいる		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内会、近隣の保育園、地域住民など交流あり暮らしを楽しめるよう支援している		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力病院やその他のかかりつけ病院の通院介助をおこなっている。受診記録を作成し通院時持参情報の共有を協力病院とは、とっている	近くの協力医療機関の受診に職員が同行し、薬や状態が変わった時は家族に連絡している。約3割は家族の対応でかかりつけ医を受診しており、必要に応じて支援経過をコピーして家族に渡している。受診内容は個別に記録して共有している。	

ふれあいの里 グループホーム 柘

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	2週間に1度協力病院による訪問看護師による健康管理を行っている。その際に相談やアドバイスをやっている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した際には、できるだけ面会に行き担当看護師などとも情報交換を行っている		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に事業所としての方針を説明し、理解を得た上で契約している	重度化対応指針と看取りの考えを説明し同意を得ている。病状などに変化がある時は主治医、家族と方針を話し合い、医療行為が継続する場合は入院方向で確認している。話し合った内容を明確にして受診記録への記載を考えている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	普通救命講習を入職時受講するようにしている		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	日中、夜間の火災を想定し避難訓練を実施。町内会の方にも協力をお願いしている	消防署立会いで避難訓練を実施し、町内会役員や近隣住民は見守りで参加している。職員間で地震や水害時の避難場所や居室などの安全確認を行っている。災害備蓄品類はストープを用意し、食品類も本部から来週中に届けられる予定である。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	声かけの仕方や会話の中でも尊厳を守るように心がけている。個人情報、他者の目にふれないように注意をはらっている	外部講師による、法人の接遇研修に参加している。職歴や生活歴を把握した声かけをして、羞恥心に配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	訴えがある場合は、傾聴し困難な方は、表情、日常の様子から思いを汲みとり支援ができるよう努めている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人のペースが守られ希望に添えるようできる限りの支援を心がけている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の意思による洋服選び。訪問理美容による定期的なカット、顔そりをおこなっている。その他馴染みの理美容室へ行く支援をしている。月1回来るメイクボランティアによるメイクも進んで参加されている		

ふれあいの里 グループホーム 柘

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	月1回の自由献立は、入居者様と話し合い決めており職員と一緒に準備、調理、食事を楽しんでいる。日常的に準備や後片づけを行っている	法人の献立を基本に、利用者の好みに合わせて調理法を変更することもある。誕生日には、本人の好きな献立にしたり外食などに出かけている。畑の野菜と一緒に収穫して旬の味を楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1日を通して水分量など確保できるように努めているが拒否なども見られることもありその都度工夫している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時や、毎食後に声かけや一部介助にて。義歯の方は夜間消毒するなど清潔を保つ事ができるよう支援している		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人一人の排泄パターンを把握して時間を見てトイレ誘導や声かけなど行っている	日中は、可能な限り布パンツやパットを使用してトイレでの排泄を支援している。全職員で検討しながら、リハビリパンツから布パンツに移行したり、パットの大きさを調節している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取や体を動かすことに気をつけまた主治医から処方された下剤を使用しながら予防に取り組んでいる		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴拒否が見られる入居者様には、声かけやタイミングなど時間をずらして支援している	午後の時間帯を中心に、週2回入浴できるように支援している。本人の意向に応じて入浴回数を増やしたり、体調に応じて二人介助で対応している。歌をうたったり、入浴剤を入れて色や香りを楽しんでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人一人のペースで休息や睡眠がとれるよう意思を尊重している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の把握に努め服薬時には、飲み込みまで確認。症状の変化などが見られたら記録に残し確認している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者様の得意な事を引出し役割や楽しみを持つよう支援している		

ふれあいの里 グループホーム 棟

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩がしたいとの希望で毎日天候を見ながら外出したり個別にて外出したり年に1回は、全員にて外出行事を行っている	車椅子の方も一緒に散歩したり、光庭で外気浴をしている。コンビニやスーパーに買い物に行ったり、河川敷の方まで出かける利用者もいる。毎日散歩に行く方もいる。数人で観光名所や工場見学に出かけている。冬季も、通院や薬を貰いに出かけるなど、月1回は外出する機会がある。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を管理できる方は、御家族と相談の上、管理していただき買い物時は、支払っている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の支援をしたり、訴え時には、都度対応している		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間には、季節ごとに飾りをし色や明るさ、温度や湿度にも配慮している	光庭を中心にした回廊式の広々とした造りで、食堂の他に広い居間や和室などがある。壁には、季節感のあるクリスマスブーツやツリーなどを飾ったり、利用者の写真なども掲示してあり、家庭的で温もりのある共用空間になっている。ユニット玄関ホールや風除室に椅子などを配置して、利用者がゆっくり過ごせる空間作りを行っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	窓側に椅子を置いたり独りの時間や休息がとれるよう支援している		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の好みの物や馴染みの物を置くなどし室内温度、室内湿度に配慮している	各居室に、クローゼットが備え付けてある。好みの椅子や使い慣れたタンス、収納ケース、縫いぐるみなどを持ち込んで落ち着いて過ごせるように工夫している。自分で書いたことわざや百人一首、写真などを壁に飾り、その人らしい居室になっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリーになっている。手すりもあり生活に危険がないよう物の位置にも配慮している		

### 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0193600350		
法人名	日総ふれあいケアサービス株式会社		
事業所名	ふれあいの里 グループホーム 校		
所在地	苫小牧市青葉町2丁目9-10		
自己評価作成日	平成26年11月20日	評価結果市町村受理日	平成26年12月25日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「1階 ユニット」に同じ
--------------

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2014_022_kan=true&amp;JigrosyoCd=0193600350-00&amp;PrefCd=01&amp;VersionCd=022">http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2014_022_kan=true&amp;JigrosyoCd=0193600350-00&amp;PrefCd=01&amp;VersionCd=022</a>
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	平成26年12月4日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(2階 アウトカム項目) ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域交流として町内会のお祭り、町内保育園の行事に参加しながら実践している		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣との挨拶、ゴミ拾いや落ち葉拾いなど交流をはかっている		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	町内会での集まりなどに参加し理解を求めている		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	御家族、町内会役員、市役所担当者、地域包括センターに参加いただき近況報告、意見交換をしより良いサービスにつなげている		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議への出席依頼、その他疑問点には説明を受けたり相談をさせていただいている		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は、正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止等研修に参加し学ぶ機会もあり事業所内にてスタッフ一人一人が意識しながら注意を払い防止に努めている		

ふれあいの里 グループホーム 柗

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階)		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修の機会があれば、参加を促している			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分に理解、納得をしていただいた上で契約をおこなっている			
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関にご意見箱を設置している。運営推進会議の際や日常の来訪時にご意見をうかがっている			
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に一度ケアカンファレンスを開き意見交換し運営に反映させている			
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	開設から11年目となり、年々条件は、向上している			
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人での研修の機会、法人外での研修案内は、回覧し研修の機会を作っている			
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内での研修、行事等で相互に交流することがあり資質向上に役立っている			

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階)		外部評価	
			実施状況		実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	不安、要望があった場合きちんと話を聞き安堵感を与えられるように、個人にあった対応に努めている			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	新しく入居される方、また現在入居されている方の御家族と話すときは、不安な事や願い事を聞く様に心掛けている			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居されたご本人と御家族様がどのような支援を必要としているのか御家族と共に考えるよう努めています			
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家族の立場に立って接するよう心がけ、日々一緒に穏やかな生活が送れるよう信頼関係を深めている			
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	御家族様との情報交換を行いながら共に支えていくことができるよう関係構築に努めている			
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会に来られた方には、再度の来説の声かけしたり行事等への参加の呼びかけをしている			
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	居間で入居者様がお手伝いなどして下さる時など他入居者様に声かけしたり行事等への参加の呼びかけをしている			

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	関係を断ち切らないように相談事があれば支援している		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	生活歴や日々の暮らしの中で思いなどくみ取るようにしている		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	それまでの生活習慣、環境、性格など把握し支援するよう努めています		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	朝、夕の申し送り時何か問題があったらノートに記入したり経過記録への記入をしたり現状の把握に努めている		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	御家族の意向、本人の意向など聞き取りし入居者様を把握するように日々の暮らしの中では、職員間で話し合っている		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の申し送りの中や月に一度のケアカンファレンスを通して情報を共有し実践や介護計画の見直しをはかっている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	日々の状況に対応できるようサービスにとらわれることなく入居者様にとっての最良なサービスを支援するよう努めている		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内会、近隣の保育園、地域住民など交流があり暮らしを楽しまれるよう支援している		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診は、家族の希望を聞きかかりつけ医に受診できるように支援している。状況に応じ臨時通院したり相談したりしている		

ふれあいの里 グループホーム 柘

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	2週間に1度協力病院による訪問看護師による健康管理を行っている。その際に相談やアドバイスをやっている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した際には、できるだけ面会に行き担当看護師などとも情報交換を行っている		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に事業所としての方針を説明し、理解を得た上で契約している		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に普通救命の講習を受けています		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	日中、夜間の火災を想定し避難訓練を実施。町内会の方にも協力をお願いしている		

Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者様の性格を把握し一人一人に対応しています		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々一人一人のペースを大切に支援することを心がけています		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	天気の良い日には、職員の連携を図りながら散歩に出かけたり入居者様の要望に対応しています		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的に美容室の方に来ていただいたり、メイクボランティアの来説。染髪なども行なっています		

ふれあいの里 グループホーム 柗

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階)		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人一人にあったお手伝いや食事の下処理などスタッフと共にし下膳等もできる方にはして頂いてます			
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	その日の体調や状態をみながら摂取量や水分量が少ない時は、入居者様の好みの物を提供しています			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	声かけし、手順を説明したり見守りをしたりと一人一人の状態に合わせた支援をしています			
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人一人の排泄パターンを把握して時間を見てトイレ誘導や声かけなど行っている			
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取や体を動かすことに気をつけた主治医から処方された下剤を使用しながら予防に取り組んでいる			
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	その日の体調やその日の気分等本人の意思を尊重し個々に対応しています			
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その時の状況に合わせ支援しています			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人一人の薬の副作用や細かい事などの説明書があり随時確認がとれる			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々行事を行っており気分転換等の支援をしている			

ふれあいの里 グループホーム 柘

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階)		外部評価	
			実施状況		実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	人員配置などがあり毎日希望にそって支援できないができる限り希望にそう事ができるよう配慮しながら支援している			
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在お金を所持している方はいません			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	御家族様や知人より電話があればその都度対応し、入居者様がかけたいときも対応しています			
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節ごとに装飾を変えてみたり写真を飾るなど居心地のよい空間づくりに配慮している			
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブルを囲んで輪になり入居者様同士が談話したりゲームをしたりできる様支援しています			
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族の写真を飾ったり好きな飾りを飾るなど居心地良く過ごせるよう工夫している			
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリーになっている。日々の生活の中での事は、個々の状態により支援している			

目標達成計画

事業所名 ふれあいの里 グループホーム 椋

作成日：平成 26年 12月 23日

市町村受理日：平成 26年 12月 25日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	4	運営推進会議における会議について出席できない家族の意向も取り上げていき質の向上につなげる	運営推進会議にてテーマを決め家族の意向を収集しより良いサービスにつなげたい	今後運営推進会議の案内時アンケートを行い家族の意向を取りまとめ家族の意見として反映していきたい	2ヶ月
2	6	全職員が身体拘束をしないケアに取り組んでいるが日々身体拘束についての確認はしていない	身体拘束の具体的な禁止行為の11項目を把握する	身体拘束においてリーダーを決め内部研修にて具体的に理解を図っていく	1ヶ月
3	10	家族の来訪時などに意見を聞いているが意見など少ない為、家族来訪時些細な思いも汲み取るようにする	家族来訪時や電話にての連絡事項の時には、家族の言葉に耳を傾ける	家族の思いや要望など聞かれたら些細な事も申し送りノートに記録し、職員間で共有できるようにしケアカンファレンスで取り上げていく	1ヶ月
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。